

エクセレント NPO ってなに？国際協力に関する NGO・NPO の実際を知ろう！

講演者：壽賀一仁氏 一般社団法人 あいあいネット理事

文責：若山友佳



講演はワークショップに始まり、NGONPOの理論、JVCの活動内容、そして今回の講演会題目である「エクセレントNPOとは何か」の説明という流れで行われた。いわゆるNGOと呼ばれるものだけでなく部活動や町内会など暮らしにある活動もまたNGOである。「これだけがNGO」と決めつけてはならない。NGOとは人類が生まれてから存在しているどこにでもある活動だ。ワークショップの際、壽賀氏はこのように語った。NGOとは小難しい自分とは関係のない団体である、といった多くの人が持ちうる既成概念を壊してから講演は始まった。

<NGO・NPO の理論>

世の中に社会的サービスを三つの担い手で示すとすると GO（政府が提供するもの・年金等）、PO（企業が提供しているもの）、個人（自分が必要な社会的サービスを自分で満たす）に割り振ることができる。まだそのどれもが対応していない空いた空間をどうやって埋めるかといったときに、この理論を利用することにより広い意味でその担い手は NGONPO ではないかという整理の仕方ができる。あるいは社会における様々なアクターとの関わり合いを考えるためのヒントとしてこの理論は有効である。例えば GO と PO の境界には第三セクターが存在する。フェアトレードはまさに PO と個人の間にあるものかもしれない。

<JVC の活動内容>

JVC とは 1980 年に設立された NGO である。年間予算 3～4 億で、活動分野も多岐にわたり、活動地域も幅広いという特徴がある団体である。地域において状況はもちろん異なり、支援の方法やあり方は常にその地域に合わせたものでなければならない。例えば国によっては政治的要因により、政府や国際機関と距離を置いた支援が必要な場合もあるなど、NGO の活動は国の状況を踏まえたものが必要とされる。

<エクセレント NPO>

NGO というのはただ単純に非政府というだけであり、良い悪いは示していない。そういう中でどのようにして良い NGO を選ぶのか、育てていくのか NPO 法ができた 90 年代末から議論になってきた。そのような中で、エクセレント NPO=優れた NPO を評価する基準が先日提唱された。それは確かに NPO がその社会的影響力を増すための一つの指標にはなりうるが、問題点も指摘されている。例えば意図がないにしても補助金の基準にされてしまいかねない点、各組織規模を踏まえていない点、そしてそもそも評価の価値基準自体の妥当性に議論の余地があるなどといった点が挙げられる。

今回の講演会は NGO・NPO の知識を多角的な観点から得ることができる情報が凝縮されたものであった。質問をする機会は設けられたが、時間が足りないほど熱心に質問をする学生の姿が数多く見られ、講演後も壽賀氏に質問をしようと集まる学生が数十分の列を成し、第一線でご活躍されている方の知識や経験を貪欲に吸収しようとする気迫が感じられた。国際支援、そして NGO・NPO に興味を持つ学生にとって、今回の壽賀さんによる講演は大いに刺激になるものであったはずだ。

ワークショップ：今までの人生の中で自身が関わった NGO（二人以上で行った非政府な活動）は何か書き出し、その中で NPO に丸をするという作業を通し、いかに色々な種類の NGO・NPO に学生たちが参加してきていたかという気づきを与えるもの。